

さみしい夜の句会報 第145号 (2023.11.26-2023.12.3)

- ◆ 参加者：しまねこくん、菊池洋勝、水の眠り、徳道かつみ、まどけい、うつわ、はゆき咲くら、中村マコト、ヴたこ だよ、片羽 雲雀、古城エツ、susie、睦月ヨシ、輪井ゆう、みさきゆう、温(ぬる)、西脇祥貴、さこ(砂狐)、元さん、西沢葉火、萩原アオイ、たろりずむ、花野玖、おかもとかも、みりん、天天雷馬勝、石原とつき、小沢史、鴨川ねぎ、何となく短歌、天やん、りゅうせん、宮坂愛哲、岡村知昭、月立耀、蔭一郎、燕雀之心、やは、crazy lover、ゆりのはな(、magaki、まつりべきん、丸山修平、すま(、Take、ともなう、雷(らい)、かれん、小山あすか、かれん、しるとも、海馬、汐音、葉月、佐竹紫田、水色の午後、風ちひろ、ダリア20、もゆら、かきもちり、蝶々、瑠璃、いずみ、石川聡、上崎、山羊の頭、ラーラ、カゲキ、ちやけぞう、ちゆけ(彩緒、シャンテ、おん*、とるぼとる、苔空海・刈化士、logomaki、時田計、月波与生(七六名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

懐かない犬が困った顔している 雷
もう描かれている絵のなかの風 雷
一斉に念じて収入印紙飛ぶ おかもとかも
寝癖びんびん銀杏落葉を敷きつめて いずみ
表情を今ごろ読めて顔は思い出せず 雷
夜に見えなくなつたひと、光かな やは
君の町から来た雲が降らす雪 中村マコト
畳まれる十一月のパイプ椅子 蔭一郎
家出から戻った姉と観るテレビ 中村マコト
国境で遊んでばかりいるスズメ まつりべきん

筋肉少女帯の霹靂地図 水の眠り
遊園地だった記憶はバス停の名前だけ 中村マコト
ライオンズマンションなのか？お前んち 馬勝
迷ったらここでレレレをする決まり おかもとかも
小春風いつも左折の角を右 花野玖
鯛焼が女に変わる一部始終 しまねこくん

*

寒風や空中分解の軍機 菊池洋勝
欲しがりな人こそそこに並ぼうか 徳道かつみ
焼酎に漬けたらさぞかし旨い臓 まどけい
書割の白き峰々燃え上がる うつわ
減らず口縫われた神の物語 片羽雲雀
大根干す正義歪んで美味くなり SYUSYU
初デート猫を百匹用意して 睦月ヨシ
光もう空に吸われて人も透け 輪井ゆう
ひび割れた指先しみる涙の雫 温
粗製濫造はハツカな中島みゆき 西脇祥貴
網膜からはみ出る君の残像 砂狐
酸っぱいは成功の桃 西沢葉火
淋しさをわかってくれる一等星 みりん
駅長のことのほか表面張力な黙読さらに 石原とつき
うつくしい卵巣ならよかった 小沢史
みんなみんなエジソンのせいにして暖まろう 鴨川ねぎ
「大好き」を刻むさよなら冬茜 天やん
祈るたび虹が痩せたり浮腫んだり りゆうせん
初恋やあの娘の夢を今も見る 宮坂変哲
セクシー田中さん観る夜や冬ぬくし SYUSYU
鼻のいなくてやかましい港 岡村知昭
綿棒を耳に差し込む白い部屋 うつわ
凜とせし 安達太良真弓 虎落笛 燕雀之心
あー今日も仕事終わればガンガンと crazy lover

北風に財布の中もカラッカラ ゆりのはなこ
間隙を透けて鶴鶴の兆し *margort*
イカ同分 丸山修平

密やかにおおんおおんと夜が泣く すさこ
さみしんぼエンドロールで缶酎ハイ ともなう
マサチューセッツ効果大 西沢葉火

讚美歌に飽きた天使はジャズを聴く 小山あすか
癒し欲しい れん

冬浅し太腿がまだはしゃいでる しろとも
へそでミルクを沸かす父 海馬

コーヒーに注げぬミルクあわいの熱 かれん
かざはなを知らないわたしと合わないでしょ ダリア

220

むらさきのりぼんをかける羽根も挿す 上崎

東雲の夢のパープルフオビアなの 石川聡

寺町に雁鳴く夜の密かごと ラーラ

休日の終わりを告げる 時のベル カゲキ・ちゃげぞう

*

伝言ゲームさびしい耳朶を出しなさい 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

買ってきた電気毛布はデビュー日にニャンモナイトを先輩
と呼ぶ 古城エツ

夜が明けるひとりで整えるシートあなたの跡よ消えろ消え

ろ消 蝶々 瑠璃

家系図の最後をかざるわたくしは進化の大樹の美しい枝

水の眠り

海溝にねむる秘密の宝石は私が生きているだけ生きる 水
の眠り

世の中が全て難癖付けるから僕は一生口をきかない 「1」の
朝だけど私の部屋は深海だから溺れて沈め ヴたこ だよ

*

今晚は【照り焼きチキン】お隣りさんのレシピ引用 はゆ

き咲くら

幸せの理由を並べてはだから大丈夫って思ってた秋 みさ

きゆう

車窓から秋の景色の紅葉は凍てつく冬のスローガラスに

元さん

煮魚の骨を取ること自分では食べない果実を買うことが愛

萩原アオイ

格調が高くなるんだ「神様」を「神々」にするだけで短歌

は たろりずむ

電球が眩しすぎると感じては双子の流星待ち草臥れて 天

天雷

君のない街も勝手に寒くなるイルミネーション勝手に灯る

何となく短歌

冬の雨こうしてきつと忘れゆく空も記憶も上書きされて

汐音 葉月

秒針が歩みを止めることはなくなしみはいつかやさしさ

となる 佐竹紫円

カウボーイジャンキーズの音みたいに僕も優しくなれた

ら良いな 水色の午後

さみしさを言葉にしたら落ち込んだ何も言わなきゃ良かったのかな 凧ちひろ

あーすわーむ、あーすわーむ、せめてあたたかいつちでね

むれますように かきもちり

◆詩

真つ暗な部屋

星の光が差し込んだ

星の煌めきは子守唄

優しい光を抱きしめて

ゆっくりゆっくり

夢の世界に舟をだす

(もゆら)

さみしいの

なにゆえか

かなしいの

憂いても

何事も

自分故

遠吠えだけ

満月に (山羊の頭)

◆作品評から

きずあとに都を造るシジミチョウ まつりへきん

「都」は京の方がいいと思う。「シジミチョウ」も小

灰蝶を選ぶかな。いい漢字だし。(月波与生)

幻想がむくんで靴下が脱げる りゆうせん

「このような、本当に何気ないけれど思考をする余白を
与える句を書きたい。脱げたのは靴下だけれど、幻想ばかりが
むくんでいたらきつと包んでくれていたはずの人も知らず
に失うことになるのかも。幻想って何だろう、と考
えてみる。詩を書くことが幻想かと言うと、私は逆に今生
きているこちらの世界がまぼろしのようにも思えてくる。死

者の世界をまぼろしと捉えることも出来るが、幻想に耽っている靴下が脱げている。まるで私のことのようにではないか。(かれん)

てにをはをくすぐられるとたまんない おかもとかも

〜川柳を手直しすると「てにをはを」いじつて劇的に良くなる快感を味わうことが結構ある。この快感を味わいたくて推敲していることもあるくらい「たまんない」時間。

(月波与生)

焼き芋になれなきや何にもなれねえぞ しまねこくん

〜「ここでやっていけないのならどこに行ってもダメだ」というブラック企業のおっさんのような言いぐさであるが「焼き芋になれなきや」は可愛い方のおっさん。(月波与生)

コーヒーに注げぬミルクあわいの熱 かれん

〜コーヒーに入れられるのは多分ミルクか砂糖かどっちも(チョコ入れる人もいますね) あまーい砂糖ではなく、まるやかにするミルクを「注げない」のは相手の好みでしようか。常温のミルクを「間」にしたのか、はたまた自分のこころに擬えて「淡い」にしたのかしら、と思いました。(ちゆけ(彩緒))

海溝にねむる秘密の宝石は私が生きていただけ生きる 水の眠り

〜水の眠り、という名乗りと響いていて素敵だと思います。(シヤンテ)

時雨来て塩分の濃い犬吠える 汐田大輝

〜「時雨」と「犬」には何の関係もないが「塩分の濃い」

が犬の存在を際立たせた。塩分の控えめな犬もいるんだろうな、きつと。(月波与生)

ベニズワイガニと叫んで禁固二年 岡村知昭

〜今年にはベニズワイガニが豊漁で例年より割安感があるらしい。が叫ぶと禁固二年なので(注意を。「禁固二年」の意味不明が面白い。(月波与生)

イチヨウなら銀河になった喧騒に静かに佇む銀河になったユウ

〜「銀河になった」の繰り返しが効果的。(月波与生)

もう描かれている絵のなかの風 雷

〜おはようございます。素敵ですね々 (Kei*)

初恋やあの娘の夢を今も見る 宮坂変哲

〜いい思い出だからですよ (とるばとる)

酸っぱいは成功の桃 西沢葉火

〜何事も試す価値ありますね。柿酢も桃のように美味しい。残る柿皮と米とき汁の三昧。(蒼亮海・刈化士)

買ってきた電気毛布はデビュー日にニャンモナイトを先輩と呼ぶ 古城エツ

〜本当だ…ニャンモナイトだわ！可愛らしい短歌ですね (Kogomeyuki)

〜ニャンモナイトという言葉がびったりですね。(時田 計)